

新たな総合計画について

「成長と成熟の調和による
持続可能な最幸のまち かわさき」を目指して

川崎市長 福田 紀彦



0. 市政への考え方と取組について

将来ビジョン

- 『成長と成熟の調和による持続可能な最幸のまち かわさき』を目指している。
- 「安心のふるさとづくり」と「力強い産業都市づくり」の調和によって、
⇒ 「最幸」のまちのシンボルである「子どもたちの笑顔」のあふれるまちを実現

● 安心のふるさとづくり

子どもからお年寄りまで
身近な市民生活を支える

子育て環境の整備

教育改革

安心いきいき社会

災害に強いまちづくり

障害者施策

市民自治の地域づくり

● 力強い産業都市づくり

持続可能な都市の成長を推進し
将来にわたって日本を牽引する

成長分野のイノベーション推進

臨空都市拠点として基盤整備

交通ネットワークの充実強化

都市基盤整備

市内企業の振興

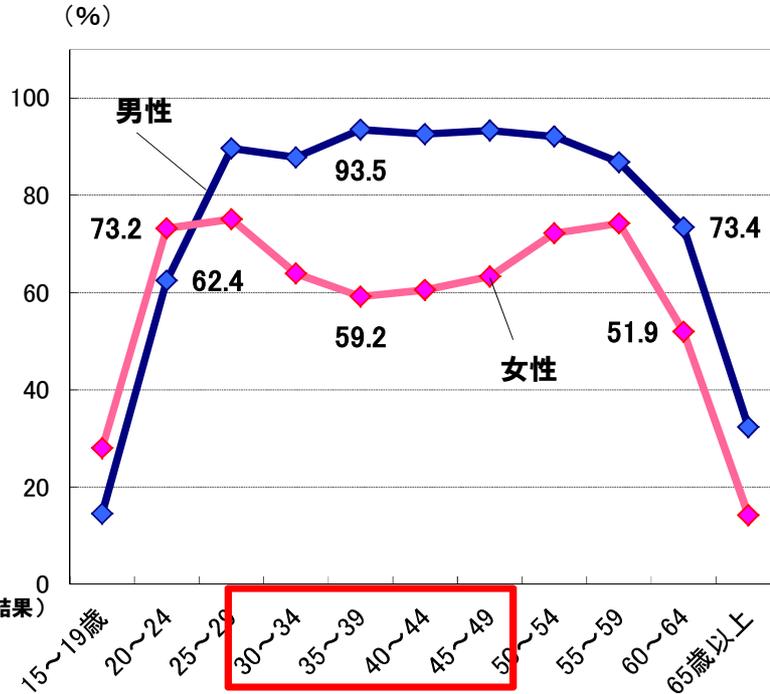
「対話」と「現場主義」

0. 市政への考え方と取組について

安心のふるさとづくり ～こども・子育て支援～

- 女性の有業率は、30歳代後半を底(59.2%)とするM字型カーブを描いている。
⇒女性の社会進出なくして日本の成長はない。
そのための環境整備を現場を持っている地方自治体で行う必要がある。

◎男女別、 年齢別有業率



出典:川崎市の就業構造
(平成24年度就業構造基本調査結果)

0. 市政への考え方と取組について

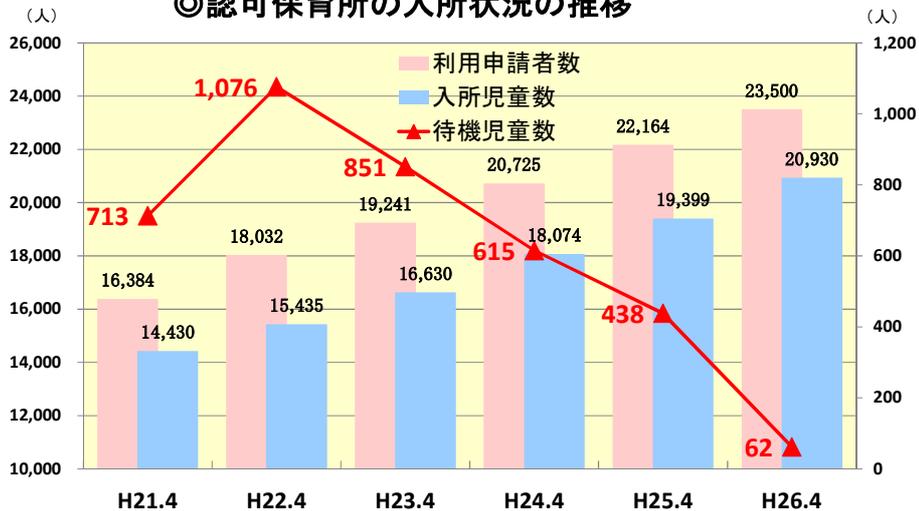
安心のふるさとづくり ～こども・子育て支援～

- 認可保育所における待機児童数は、平成22年をピークに少しずつ減少。

①待機児童対策



◎認可保育所の入所状況の推移

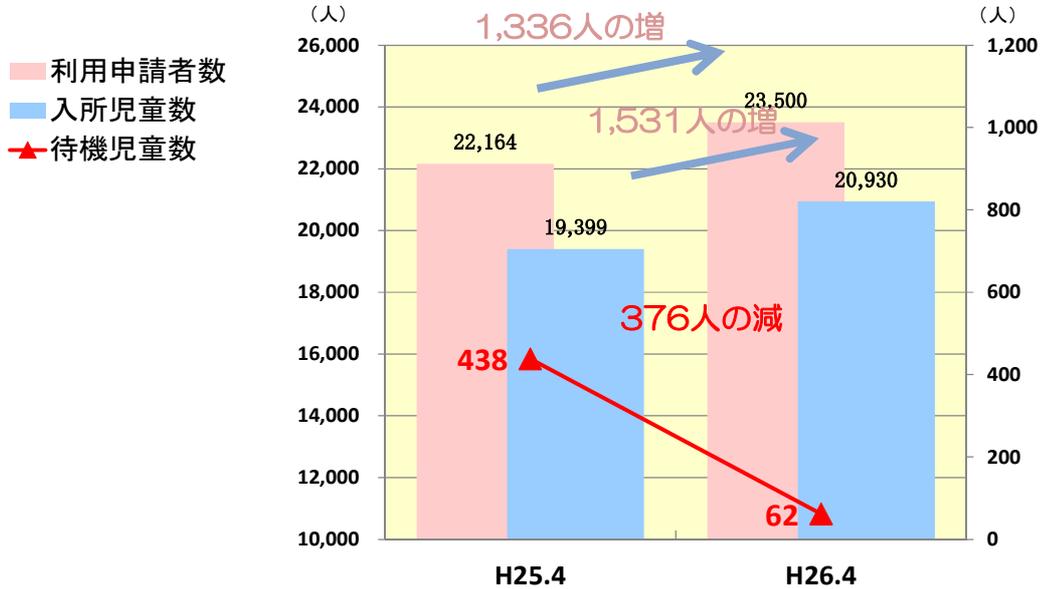


0. 市政への考え方と取組について

安心のふるさとづくり ～こども・子育て支援～

- 平成26年4月は、大幅に待機児童数を減少。
⇒ 引き続き、平成27年4月の待機児童ゼロの達成に向けて取組を推進。

◎H25. 4月とH26. 4月の認可保育所入所状況の比較



0. 市政への考え方と取組について

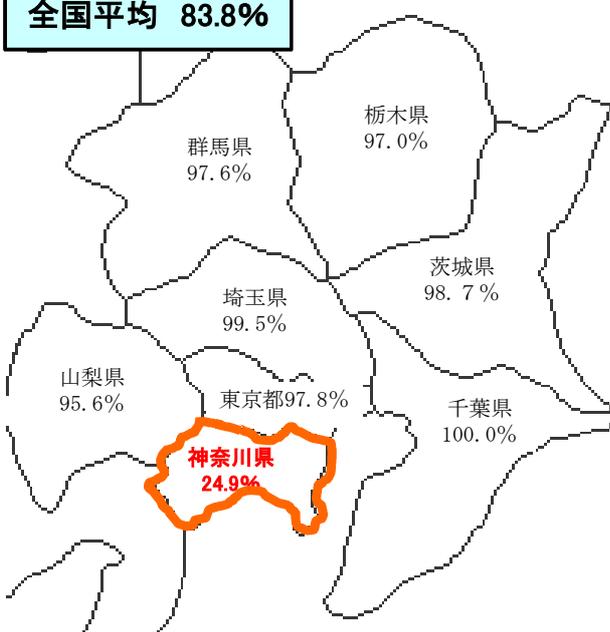
安心のふるさとづくり ～こども・子育て支援～

- 神奈川県(24.9%)は、中学校給食(完全給食)の実施割合が、全国平均(83.8%)や関東周辺の都道府県を大きく下回っている。
⇒ 平成28年度に安全・安心で温かく美味しい中学校給食を全校実施。

◎学校給食(完全給食)実施割合(公立中学校数)

全国平均 83.8%

H24. 5. 1現在 文部科学省調査結果



②中学校給食の導入



～平成28年度に安全・安心で温かく
美味しい中学校給食を全校実施～

0. 市政への考え方と取組について

安心のふるさとづくり ～教育改革～

- 子どもの学力の向上には、学校だけでなく、地域で支えていくことが求められている
⇒ 各区において、地域の寺子屋を開講
地域ぐるみで子どもの教育、学習をサポートする仕組みづくりを推進

③地域の寺子屋



～ねらい～

- 子どもたちに、さまざまな学習機会を提供することにより、学力向上や豊かな人間性の形成を図る。
- 地域ぐるみで子どもの教育、学習をサポートする仕組みづくりにより、地域の教育力向上を図る。
- シニア世代をはじめとする地域人材の知識と経験を活かして、多世代で学ぶ生涯学習の拠点をつくる。



0. 市政への考え方について

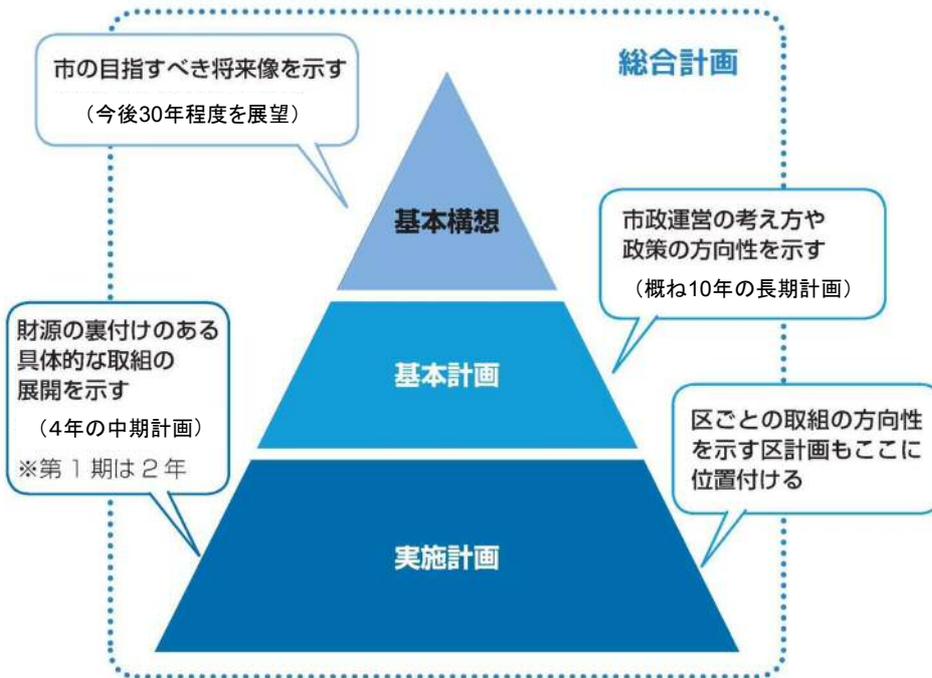
最幸のまち かわさきを目指して(5つの基本戦略)



1. 策定のねらいと基本認識

総合計画とは

- 総合計画は、市政運営の基本的な理念や方針などを体系的にまとめたもの。
⇒ 川崎市の将来に向けた道しるべ
- 「基本構想」・「基本計画」・「実施計画」の3層構造としていく予定。



1. 策定のねらいと基本認識

新たな総合計画の策定に向けた市民意見聴取

- 新たな総合計画の策定に向けて、まず市民の皆様の御意見を聴くことが必要。
⇒ 「川崎の未来を考える市民検討会」、区民祭等におけるシール投票、市民アンケート
などを実施



無作為抽出した各区600人から参加希望者を募り、このうち年代、性別等を考慮して30人ずつを選び7区で開催しました。

【開催状況】

- ・7/ 5(土) 川崎市 (川崎市役所)
- ・7/20(日) 宮前区 (宮前区役所)
- ・7/21(月) 幸区 (幸区役所)
- ・8/ 9(土) 高津区 (高津区役所)
- ・8/10(日) 麻生区 (麻生区役所)
- ・8/23(土) 中原区 (エポックなかはら)
- ・8/31(日) 多摩区 (多摩区役所)



各区区民祭では、シール投票を行いました。

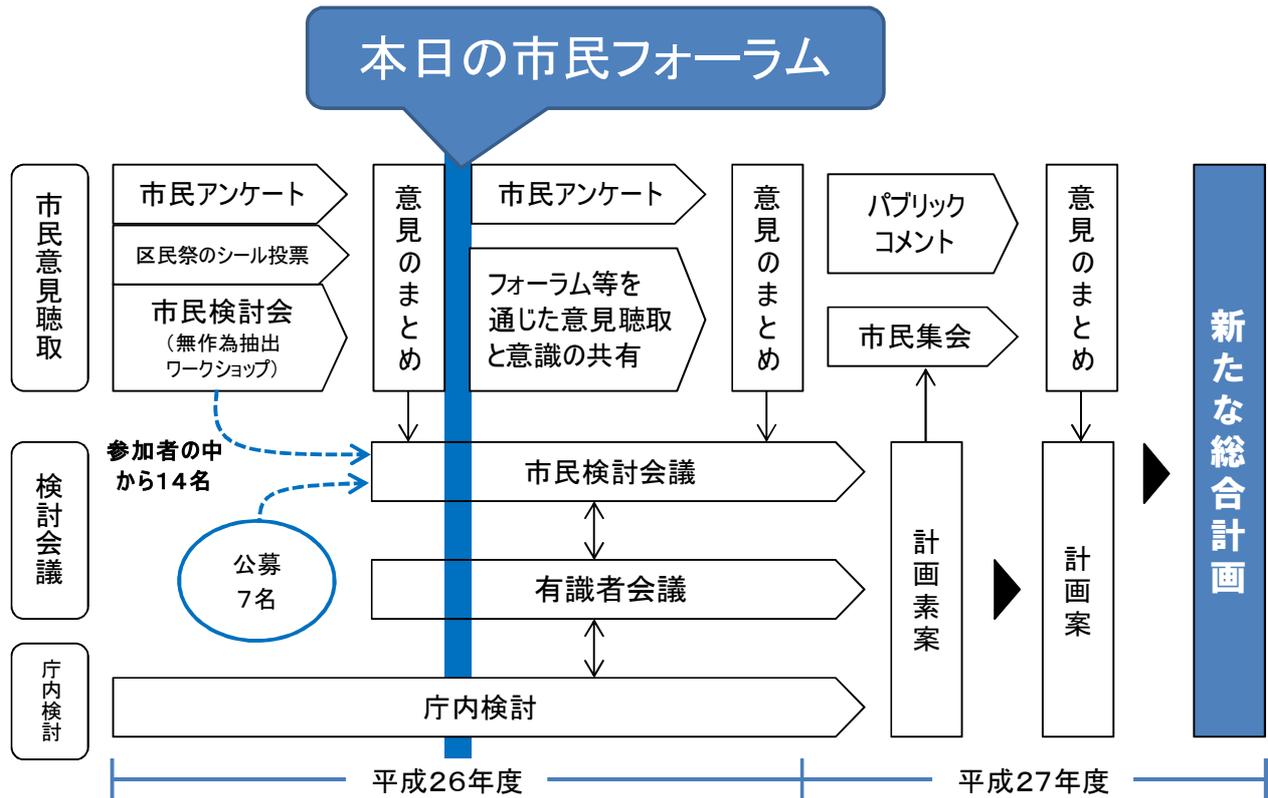
【開催状況】

- ・10/12(日) あさお区民まつり (麻生区役所)
- ・10/18(土) 幸区民祭 (幸区役所)
- ・10/18(土) 多摩区民祭 (生田緑地)
- ・10/19(日) 中原区民祭 (等々力緑地)
- ・10/26(日) 宮前区民祭 (宮前区役所)
- ・11/ 2(日) 市民祭り (富士見公園)



1. 策定のねらいと基本認識

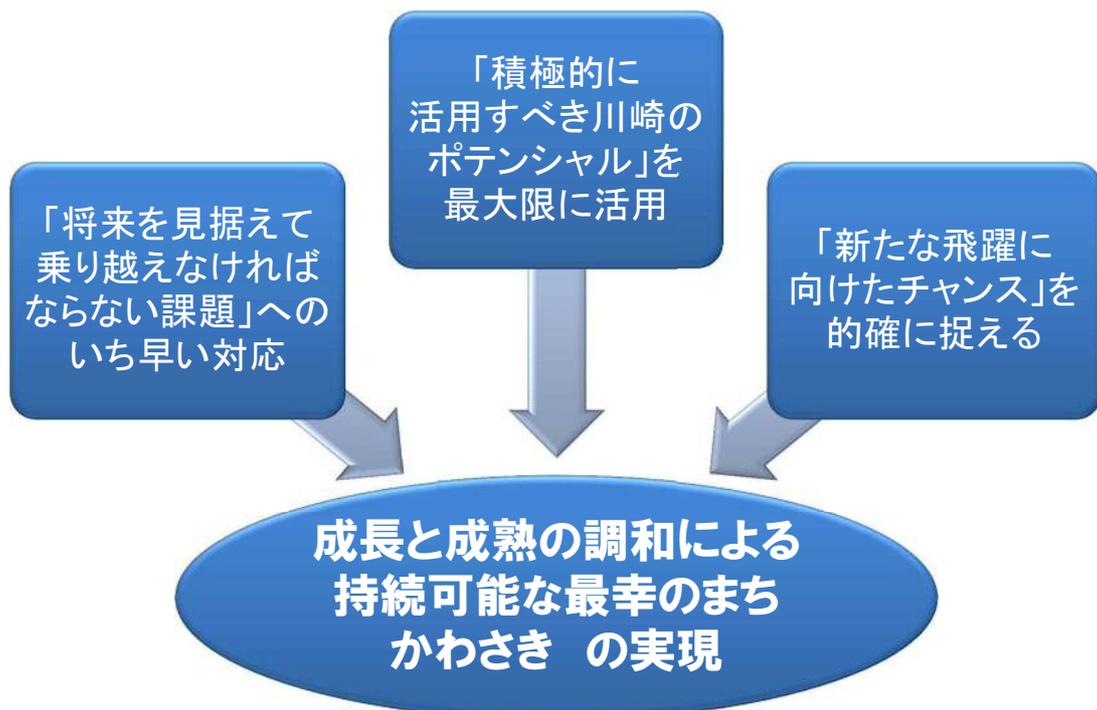
総合計画策定の流れ



1. 策定のねらいと基本認識

新たな総合計画の策定にあたっての基本認識

- 新たな総合計画の策定にあたっての基本認識は、大きく3つあると考えている。
⇒ 「成長と成熟の調和による持続可能な最幸のまち かわさき」の実現のカギ



2. 将来を見据えて乗り越えなければならない課題

計画策定にあたっての3つの基本認識

課題

- 「将来を見据えて乗り越えなければならない課題」へのいち早い対応

ポテンシャル

- 「積極的に活用すべき川崎のポテンシャル」を最大限に活用

チャンス

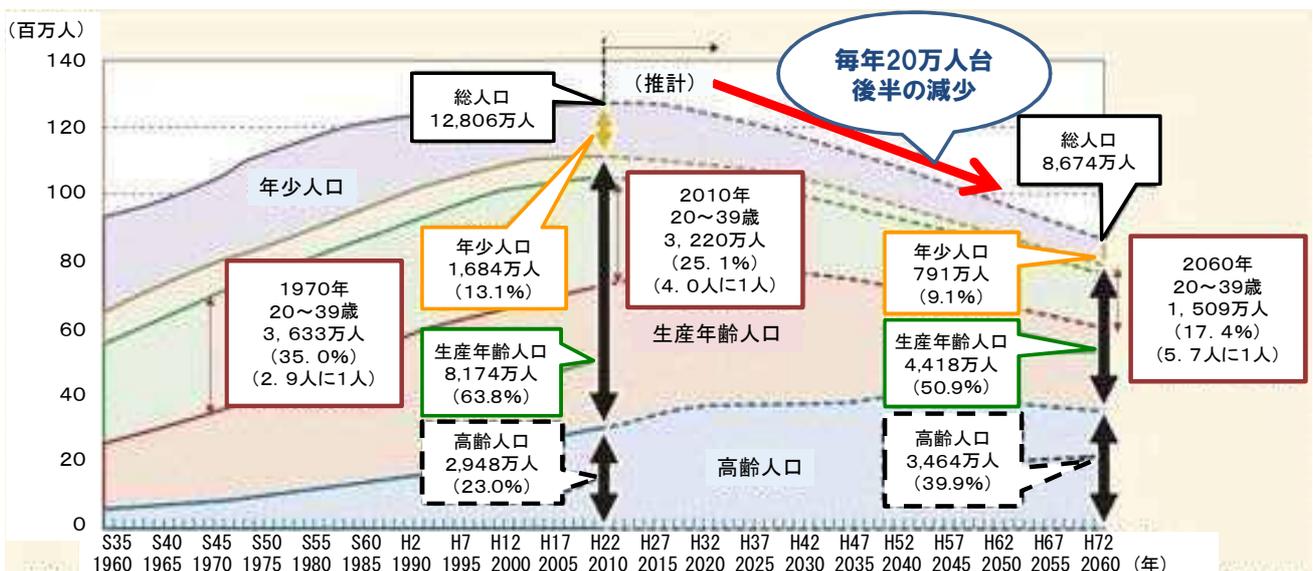
- 「新たな飛躍に向けたチャンス」を的確に捉える

2. 将来を見据えて乗り越えなければならない課題

① 少子高齢化のさらなる進展、人口減少への転換、生産年齢人口の減少

- 日本は既に、人口減少社会に突入しており、毎年20万人台後半もの人口が減少。

日本の将来人口・年齢別人口



(注) 1 「年少人口」は0～14歳の者の人口、「生産年齢人口」は15～64歳の者の人口、「高齢人口」は65歳以上の者の人口
2 () 内は年少人口、生産年齢人口、高齢人口がそれぞれ総人口のうち占める割合

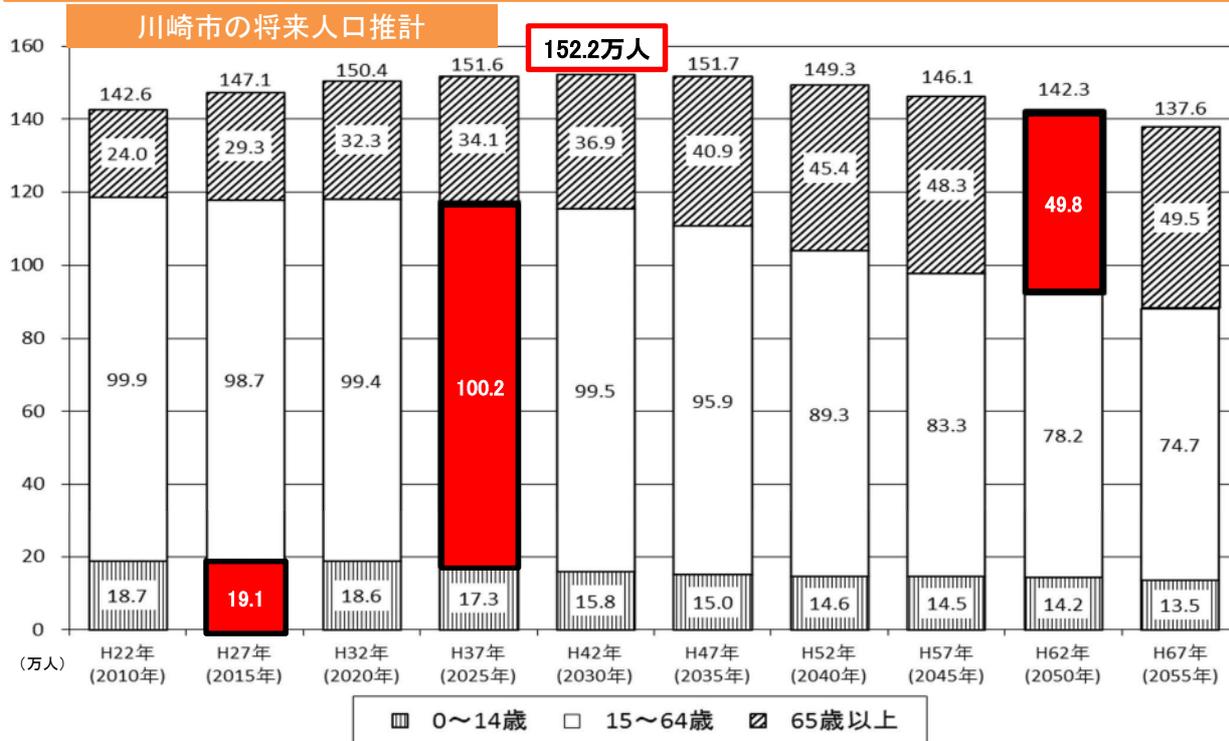
資料 総務省「国勢調査(年齢不詳をあん分して含めて人口)」、同「人口推計」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(2012年1月推計)」の中位推計より国土交通省作成

出典:平成24年度版国土交通白書

2. 将来を見据えて乗り越えなければならない課題

① 少子高齢化のさらなる進展、人口減少への転換、生産年齢人口の減少

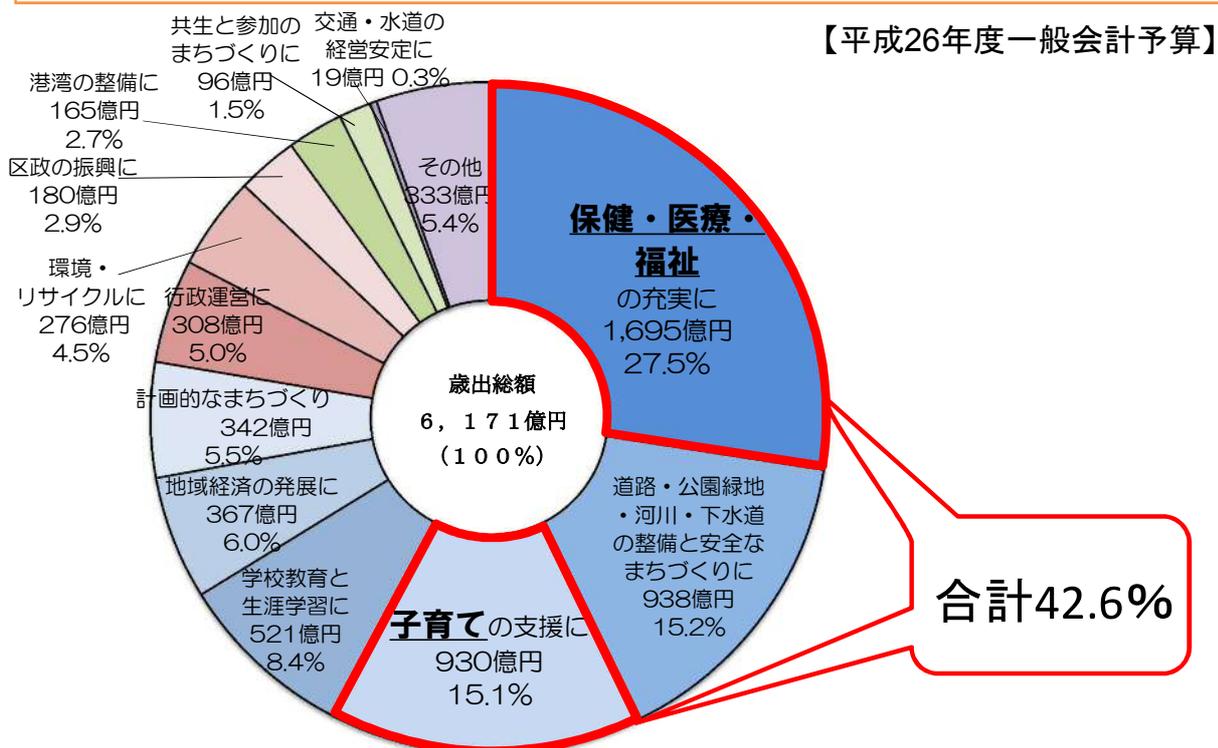
- 本市の総人口は、平成42(2030)年まで増加傾向だが、その後人口減少へ転換。
- 平成32(2020)年には、65歳以上の割合が21%を超える超高齢社会が到来。



2. 将来を見据えて乗り越えなければならない課題

② 厳しさが続く財政状況

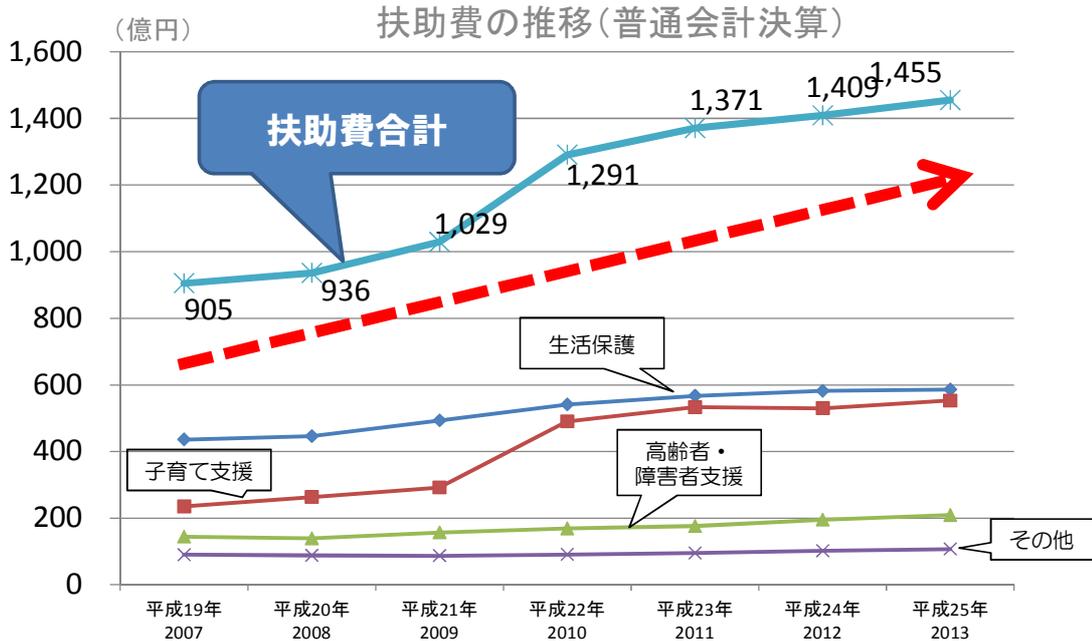
- 平成26年度一般会計予算を見ますと、少子高齢化などによる社会状況の変化により、福祉や子育てなどの分野に対する支出が、約4割を超えている状況。



2. 将来を見据えて乗り越えなければならない課題

② 厳しさが続く財政状況

「扶助費」は、近年、大変な勢いで増加を続けており、6年前の約1.5倍となっている。



扶助費とは...

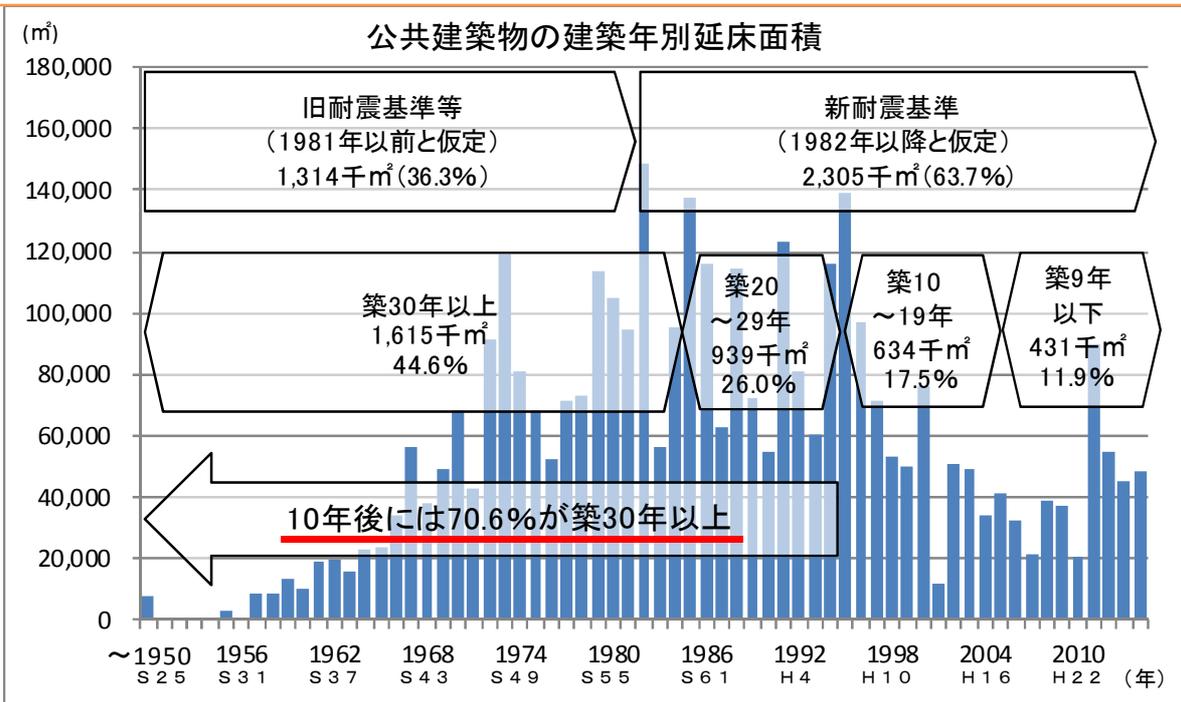
保育所整備などの子育て支援や、生活保護、高齢者や障害者支援のための経費

2. 将来を見据えて乗り越えなければならない課題

③ 老朽化の進む都市インフラ

本市の公共建築物は高度成長期の産業発展や人口急増を背景として、集中的に整備が行われ、市民生活が豊かに。

⇒ しかし、10年後には、公共建築物の約7割が築30年以上となる見込み。

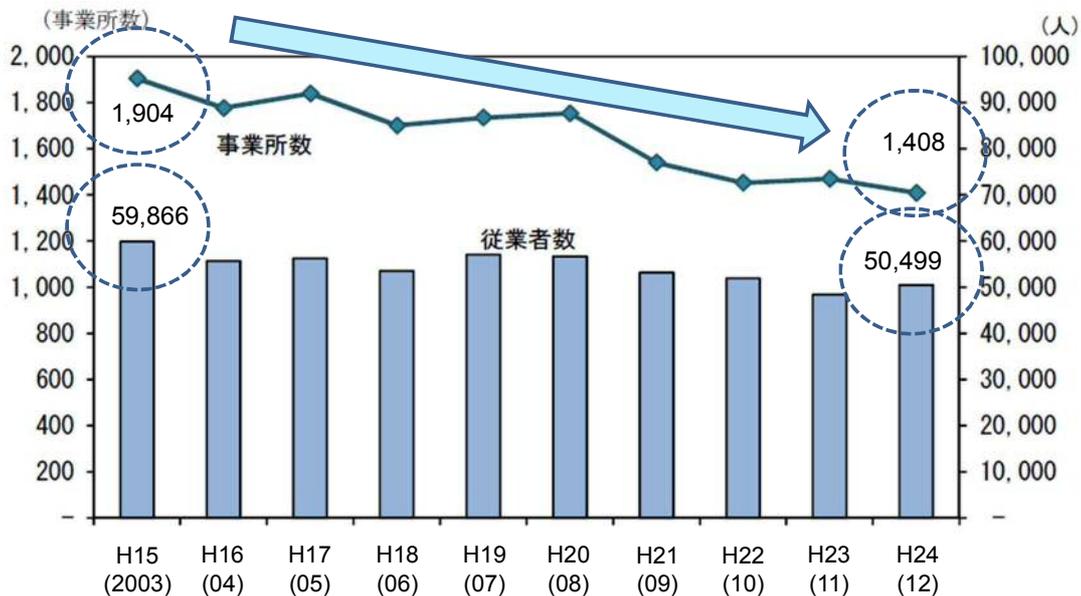


※企業会計施設を除く 出典:「かわさき資産マネジメントカルテ」から時点修正

2. 将来を見据えて乗り越えなければならない課題

④産業経済を取り巻く環境変化

- 新興国の経済成長などにより、世界に占める日本の経済的な地位が低下
- 10年間で、事業所数は26.1% (496所)、従業者数は15.6% (9,367人)減少。

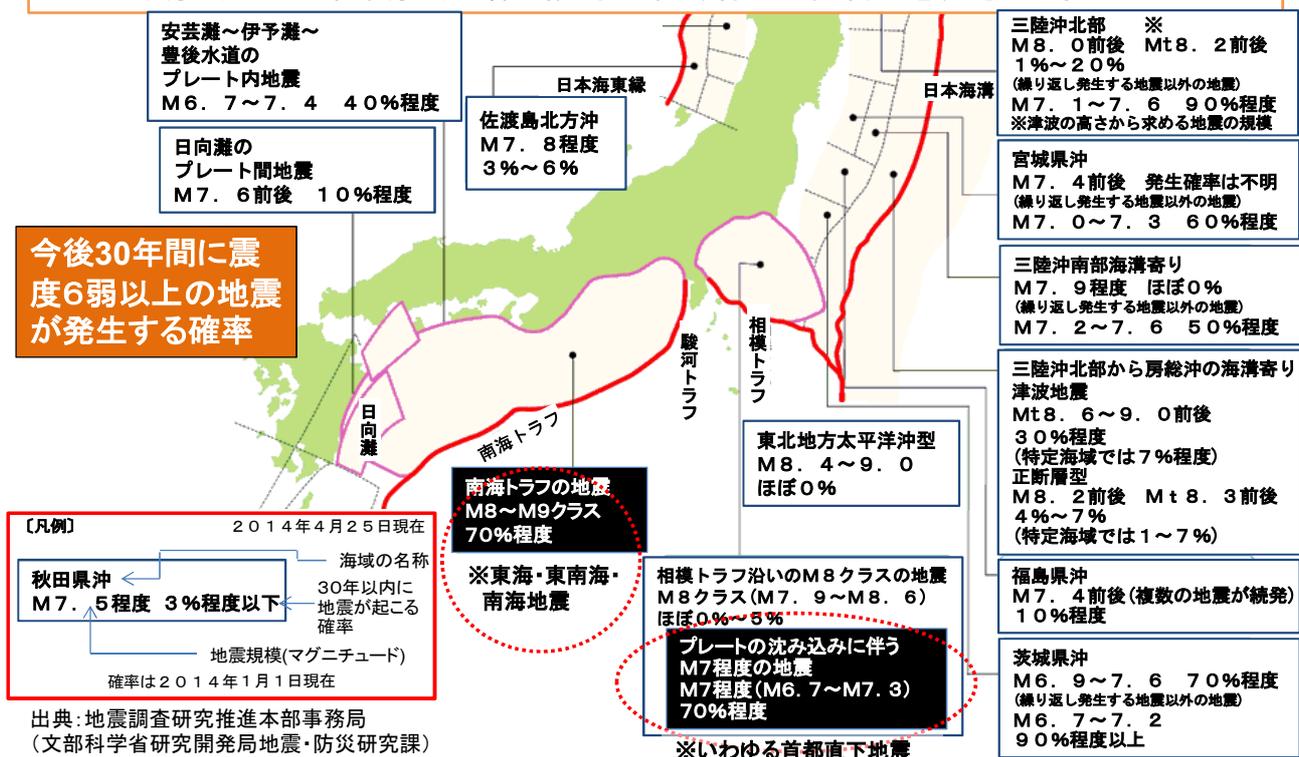


出典: 工業統計調査

2. 将来を見据えて乗り越えなければならない課題

⑤災害対策や環境問題などの重要な課題

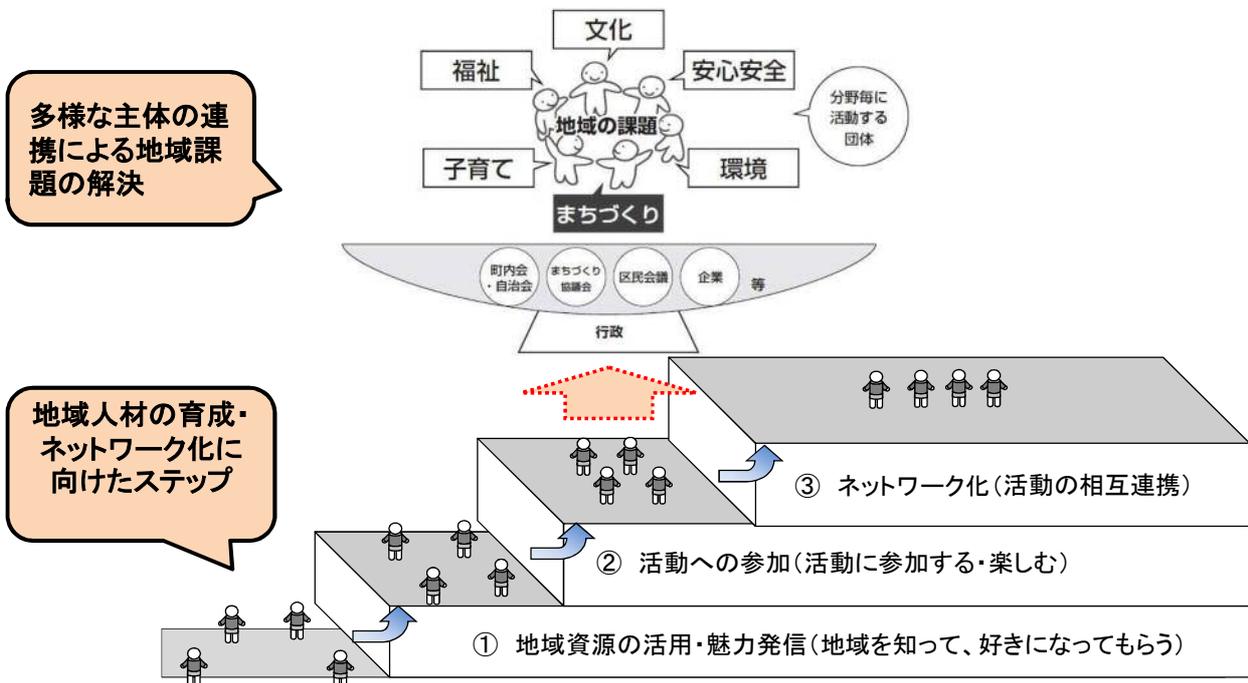
- 世界の地震の約1割が起こっている日本は、世界的に見ても地震による危険度大。
- ゲリラ豪雨などの集中豪雨も増加傾向にあり、様々な災害が想定される。



2. 将来を見据えて乗り越えなければならない課題

⑥市民の主体的な取組を促し、地域でお互いに助け合う仕組みの強化

□ 限られた資源や財源を有効に活用した、持続可能な社会を作り上げることが必要。



3. 積極的に活用すべき川崎のポテンシャル

計画策定にあたっての3つの基本認識

課題

- 「将来を見据えて乗り越えなければならない課題」へのいち早い対応

ポテンシャル

- 「積極的に活用すべき川崎のポテンシャル」を最大限に活用

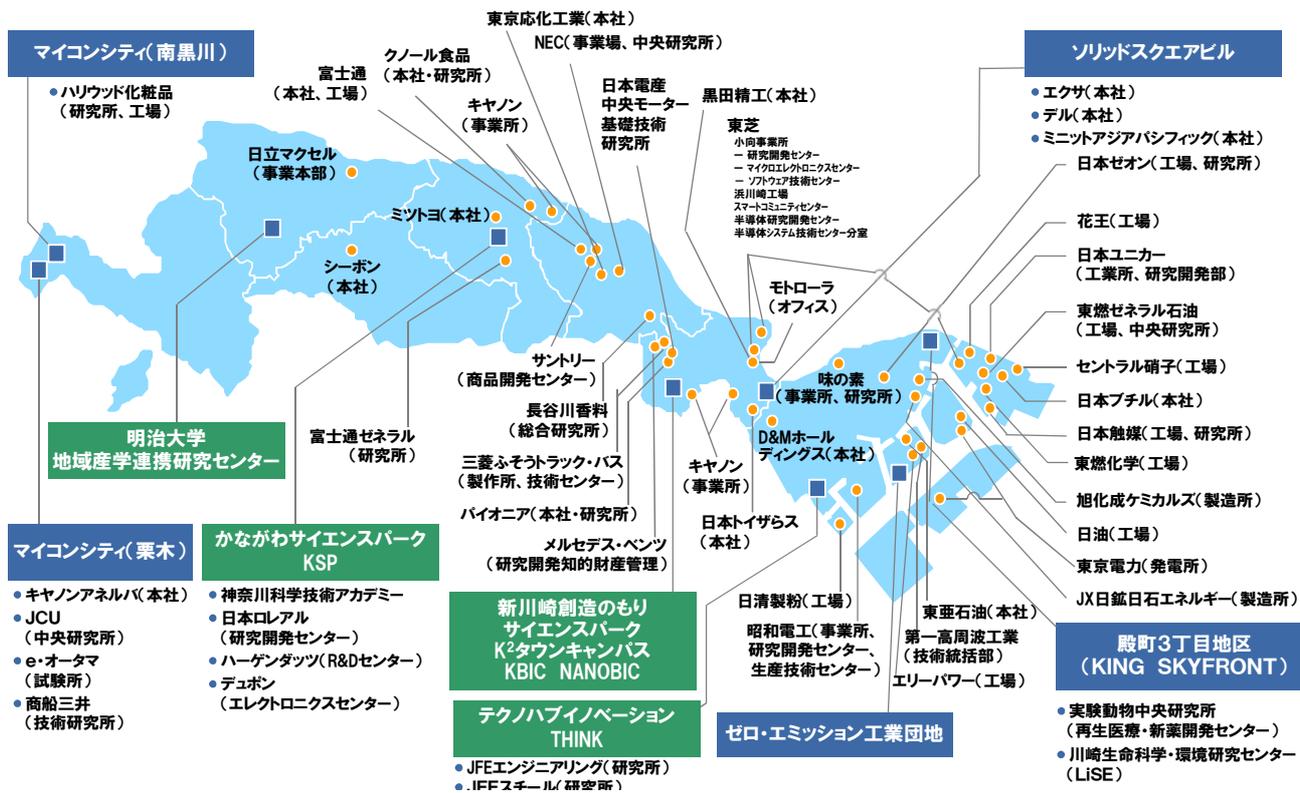
チャンス

- 「新たな飛躍に向けたチャンス」を的確に捉える

3. 積極的に活用すべき川崎のポテンシャル

主要企業と研究開発機関の立地状況

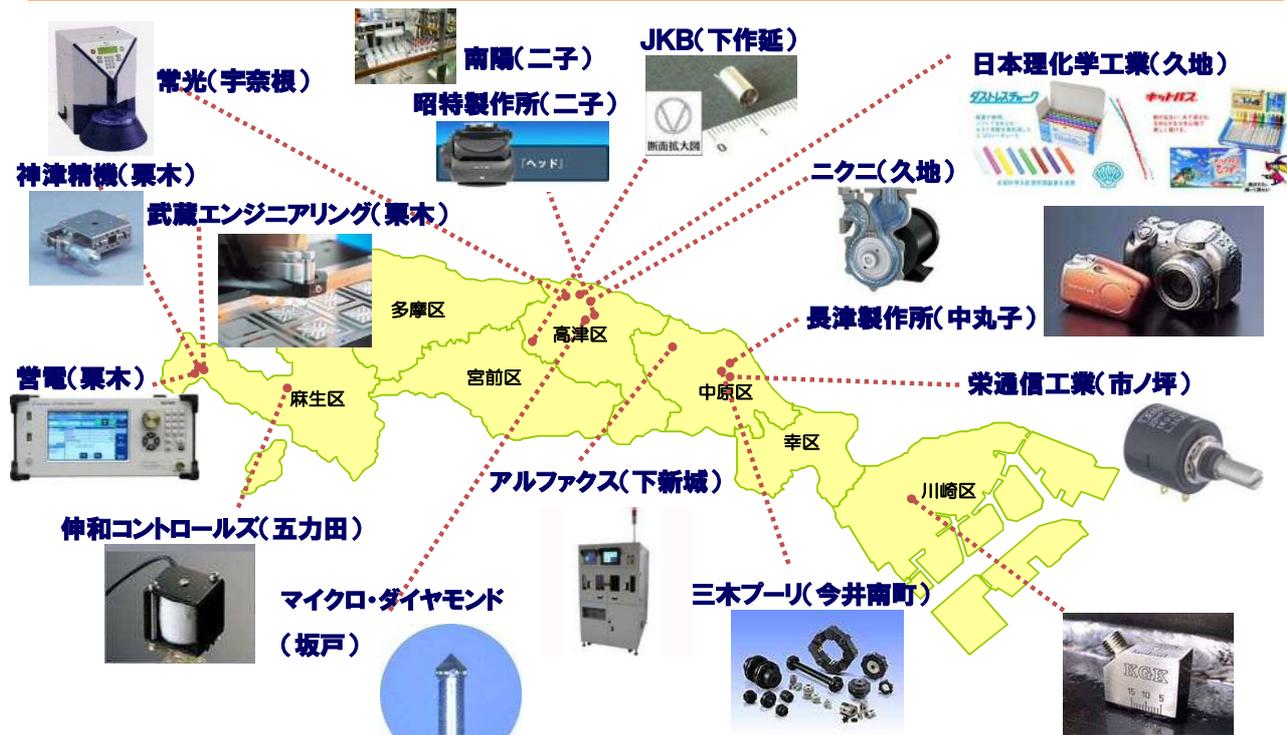
本市には、研究開発機関が200以上立地しており、優秀な研究者・技術者が集結。



3. 積極的に活用すべき川崎のポテンシャル

高度な技術力を有する中小企業の立地状況

さらに、高度な技術力を有する中小企業も集積。



「元気なモノ作り中小企業300社」(経済産業省)に選定された市内中小企業 16社

3. 積極的に活用すべき川崎のポテンシャル

魅力的な文化・芸術・スポーツ資源

□ 市民の皆様とともに育ててきた、魅力的な文化資源が豊富に存在。

音楽のまち・かわさき



フランチャイズ
オーケストラ
「東京交響楽団」



平成26(2014)年7月に
10周年を迎えたミューザ川崎シンフォニーホール→



スポーツのまち・かわさき

〈サッカー・J1リーグ〉川崎フロンターレ

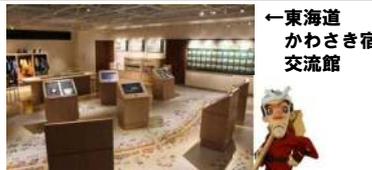


多摩川マラソン ©オールスポーツコミュニティ
・かわさきスポーツパートナー
・川崎国際多摩川マラソン
・多摩川リバーサイド駅伝
・国際トランポリンジャパンオープン
・東京オリンピック・パラリンピック開催に向けた取組

魅力的な文化施設



↑藤子・F・不二雄ミュージアム ©Fujiko-Pro



←東海道
かわさき宿
交流館



かわさき宙と緑の科学館→

4. 新たな飛躍に向けたチャンス

計画策定にあたっての3つの基本認識

課題

- ・「将来を見据えて乗り越えなければならない課題」へのいち早い対応

ポテンシャル

- ・「積極的に活用すべき川崎のポテンシャル」を最大限に活用

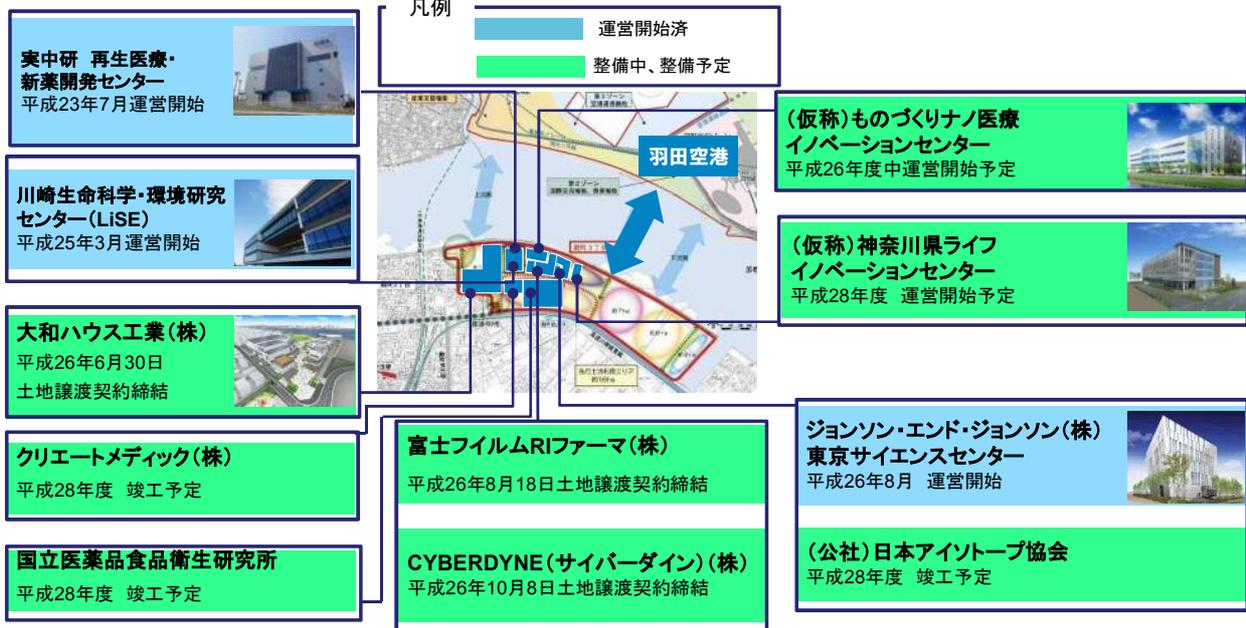
チャンス

- ・「新たな飛躍に向けたチャンス」を的確に捉える

4. 新たな飛躍に向けたチャンス

川崎を含む東京圏が国家戦略特区に指定(ライフイノベーションの推進)

- 今年の5月、本市を含む東京圏が、国の成長戦略の一つである「国家戦略特区」に指定されたところ
- 「キングスカイフロント」ではライフサイエンス分野の企業集積が進んでおり、今後、健康・医療分野の産業の活性化を通じて、日本経済を牽引。



4. 新たな飛躍に向けたチャンス

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会への期待

- 東京オリンピック・パラリンピック大会やそれに伴う羽田空港のさらなる国際化が、首都圏の活力の増強につながると期待。

2020年東京大会に対する期待(2020年東京大会を契機に社会が良くなるか?)



社会が良くなることへの期待 約5割

東京大会を契機に期待する社会変化



期待の高い分野

- 1位 観光・地域活性化
- 2位 国際交流・平和
- 3位 健康増進
- 4位 (安全)レジリエンス
- 5位 環境
- 6位 復興

注: 重視すべき順位を1~10位まで回答したデータについて1位10点、2位9点...10位1点として点数化

出典: 三菱総合研究所「オリンピックレガシーに関する意識調査」(平成26(2014)年1月)

